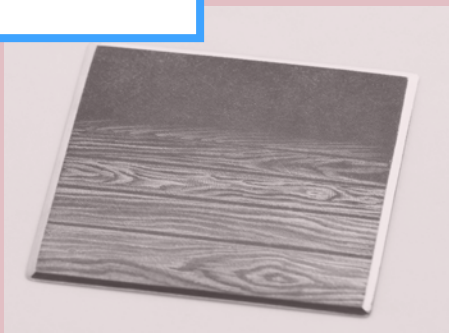
プチメゾチント づくり

冬の銅版画ワークショップ

小さな5cm角の銅板を彫って作品を作ります。
銅板に目立てから彫りを50分、刷りを30分で行う
コンパクトな教室です。ハガキサイズの紙に作品を刷り、
当日お持ち帰りいただけます。

閉館後の美術館で
銅版画の技法「メゾチント」を
体験しませんか？



11/11（木）12：00より
お電話（03-3665-0251）にて受付

event date

11/19 fri

12/3 fri

12/4 sat

12/11 sat

12/18 sat

講師　山城有未（メゾチント作家）
参加費　400円+入館料
持物　下絵（5cm×5cm）、汚れても良い服装

time

17：30 → 19：00

開催日と、申込方法

【ご参加にあたってのお願い】
感染対策のため、次のことをお願いします。・マスクの着用、検温のご協力をお願いします。
・発熱のある方や体調のすぐれない方の参加はご遠慮いただいております。

講　師｜山城有未（メゾチント作家）
日　時｜①2021年11月19日（金）
②2021年12月3日（金）
③2021年12月4日（土）
④2021年12月11日（土）
⑤2021年12月18日（土）

時　間｜17:30-19:00
参加費｜入館料＋400円（材料費込）
定　員｜各10名
持ち物｜下絵(サイズ5×5cm)、汚れても良い服装又はエプロン

山城有未
福岡県出身。東京藝術大学大学院 版画第一研究室 修了。
油彩、銅版画メゾチント技法を用いて作品制作。関東関西にて展示活動中。

体験教室Q&A

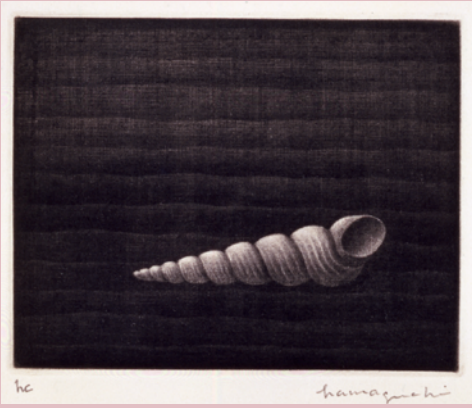
Q1. メゾチントってどんな技法？

A 1. 銅版画の技法のひとつ。ビロードのような画面が特徴です。

銅の板に施した凹部分にインクをつめ、凸部分の余分なインクはふき取って強い圧力で紙に刷るのが主な銅版画のしくみです。メゾチント技法では、最初に版全面に細かな傷（まくれ）をつけ、ビロードのような黒い画面をつくります。これを「目立て」といいます。明るく（白く）したい所は「スクレーパー」という道具でまくれを削りとり、インクが溜まる量を減らします。

ぎざぎざのまくれがなだらかになるほど明るく（白く）なり、微妙な削り加減で美しいグラデーションの表現が可能です。えんぴつで黒くぬりつぶした画面に消しゴムで絵を描くようなイメージです。

Q2. どんな下絵を用意したらいいの？



《巻貝》1959年

A 2. 浜口陽三の作品を参考に見てみましょう。

メゾチント技法による作品。（浜口陽三作品のほとんどがこの技法です）暗い背景から白い巻貝が浮かびあがります。よくみると、線ではなく黒の「濃淡」で描かれています。
貝のまるみを帯びた形、影、背景のグラデーションは、メゾチントの得意とする表現です。どちらかというと「線」で描く表現には向きません。貝のまるみを帯びた形、影、背景のグラデーションは、メゾチントの得意とする表現です。どちらかというと「線」で描く表現には向きません。
下絵を描くときは 白・・・グレー・・・黒の、色の濃淡を意識して、えんぴつなどで塗り分けてみてください。

2021年11月11日（木）12：00から電話にて受付開始。（定員になり次第終了）

ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション　TEL：03-3665-0251

Musée Hamaguchi Yozo : Yamasa Collection